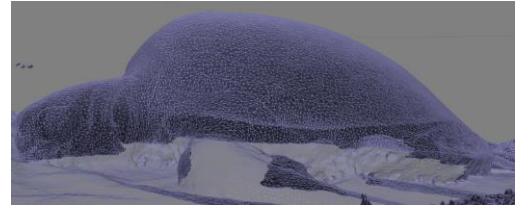


—大分県間越海岸で現地調査—



1、 海岸と海跡湖の現地調査

大分県佐伯市の間越地区の海岸と陸地化が進行中の竜神池の現地調査を 1017 年 6 月 3 日と 4 日に、NPO 法人はざこネイチャーセンターと共同で行いました。本海岸はウミガメが上陸産卵する海岸でもあり、地形や水質などの調査を、研究室の池下君、金子君、諸岡君、そして、研究室出身で現在は大分大学の鶴成准教授を加えて行いました。鹿児島県の研究室から約 400 k m 離れた間越まで、調査機材を積んだ車で早朝午前 4 時頃に出発し、ほぼ 5 時間弱をかけて安全運転で移動しました。二日間で往復約 800 k m の調査旅行でした。移動日・調査日ともに天気に恵まれ、佐伯市に入ってから、海岸地形が複雑に入り組んでいるリアス式海岸を見ながら現着でした。現地調査に参加した学生メンバーは、全員が大分県の海岸は初めての体験でした。



写真-1 間越地区の海岸と海跡湖（竜神池）の様子



写真-2 間越海岸の様子



写真-3 竜神池の様子

当間越海岸の背後には、津波堆積物で有名な竜神池と呼ばれる海跡湖があります。海跡湖ながらも、海水交換を行う入り口（・出口）の部分で人工的に設置された堰の存在により、入り口周辺に土砂が堆積して水深が浅くなり（陸地化の進行）、潮汐に伴い流入する海水の量が低下していることが推測されます。そして、塩分濃度が低下したり、湖底に細粒分の土砂が堆積することで、湖内の水質・底質環境が変化することで、生態系にも影響が出ている事が予想されます。

現地調査の結果は、NPO法人はごこネイチャーセンターより報告される予定です。